

科学哲学シンポジウム

「科学とモデル」 (Science and Model)

近年、科学的予測の社会的重要性とも相俟って、「科学におけるモデルとは何か」という問いに広く関心が持たれるようになってきました。しかし、モデルの本質を捉えることは、そう簡単ではありません。本シンポジウムでは、現在のモデル論を牽引し、フィクション説から独自の説を展開する科学哲学者、ローマン・フリッグ氏（ロンドンスクールオブエコノミクス）、ベイズアニズムの可能性を追究する統計学者、マクリン謙一郎氏（テンプル大学）をお招きし、科学とモデルの関係について考えるヒントを探ります。

「科学におけるモデルとは何か」にご関心をお持ちのみなさま、ぜひご参加ください。

● 日時：2023年2月22日(水) 10:00～17:00

● 場所：北海道大学 学術交流会館 第1会議室
(現地開催のみで、オンラインでの配信はありません。)

言語：英語

司会：松王政浩(北海道大学理学研究院)



● プログラム

第1部 科学とモデル ～科学哲学の視点から(10:00～12:00)

Roman Frigg: (Keynote Lecture) Understanding Scientific Representation.

第2部 科学とモデル ～科学、統計学の視点から(13:00～17:00)

Kenichiro Mcalinn: (Invited Lecture) Bayesianism, Fictionalism, and Predictive Synthesis.

Kenichiro Shimatani: Does Philosophical Discussion about Ecological Modelling Contribute to the Developments of Ecological Studies?

Ryota Morimoto: Subjectivity and Scientific Modelling.

Yusaku Ohkubo: The Frequentists Strategies of Model Representations: Its Diversity and Status.

■ 参加方法：参加をご希望の方は右のQRコードより
2月17日(金)までにご登録ください。

主催：科研費研究(基盤研究B)「統計学的観点を加味した科学哲学による「科学的推論」教育プログラムの構築」(課題番号：20H01736)
問い合わせ先：北海道大学 松王政浩(kisoron@phys.sci.hokudai.ac.jp)

